

ロボット・プログラミングの 特別講座が実施されました

株式会社コアネットより、講師の先生方が来校され、情報Ⅰを学習している高校2年生に向けてロボットプログラミングの講座をしていただきました。学生たちは、自分のBYOD端末にインストールされたプログラミングソフトを活用し、小型のロボットを自由自在に動かしていました。



プログラムは自分の思い通りに動かずに、プログラムした通りに動く！悩みながらコードを考えています。

DXハイスクール ってなに？

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的な探究的な学びを強化する学校などに対して、そうした取組に必要な環境整備の経費が支給される制度です。令和6年度、本校はこのDXハイスクールの採択校に選ばれました。この『BYOD&探究通信』では、DXハイスクールをはじめ、BYODやICTを活用した学習状況をご紹介します。



黒い線を読み取って 自動で走る！

小型のロボットには左右に光センサーが内蔵されており、地面の黒い部分と白い部分を読み取ることができます。生徒たちは「右のセンサーが白を感知したときは左に動くようにするには…」と論理的思考力を働かせながらプログラミングにチャレンジしていました。

Moriyama BYOD & 探究

通信

2024.07.19 第1号発行



Wi-Fiエリアが 拡大します！！

これまでWi-FiがつながっていなかったCALL教室・セミナーハウス・体育館でもWi-Fiが使えるように工事を行いました。体育では、ダンスを動画で撮影して自己評価につなげるなど、ICTを活用した学習活動を行っています。CALL教室は普段LETの学習で活用されており、生徒同士でpower pointのスライドを共同編集して発表するなどの学習活動が行われています。



学校では、答えが1つしかない問題に取り組むことが多くなりがちですが、プログラミングは、人によっていくつも答えや考え方があります。生徒の皆さんにとっては、新鮮な体験になったことと思います。

なぜいま プログラミングなの？

講師の森野先生は、プログラミングを学ぶことによって「論理的に、順序立てて考える力をつけてほしい。そして、自分のプログラムが実際にロボットを動かしているというワクワクを味わってほしい」と話されていました。



【編集後記・情報課より】

ICT先進国スウェーデンでは紙と鉛筆の教育に回帰する流れがあるといえます。ICT機器は使えばよいという「目的」ではなく、よりよい学習に活用する「手段」として常にその使い方を考えていかなければ…と思います。

